

多様な武道等指導の充実及び支援体制の強化 武道推進モデル校 研究報告

剣道・弓道	光市大和中学校（山口県） 電話番号 0820-48-2803 メールアドレス yamato-j@hikari-net.ed.jp
--------------	--

●実践研究のねらい

- 武道専門家による系統性のある指導を受けることで、武道の楽しさを味わい、武道の魅力を感じることができる。
- 剣道・弓道の実践をする中で、武道の伝統的な考え方を理解する。
- 武道の学習を通して、礼義作法を学び、日常生活に生かそうとする気持ちを涵養する。

●多様な武道の指導モデル 第3学年（2学級37名）

種目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		
	剣道							弓道					
学習の流れ	オリエンテーション	あいさつ・準備運動（胴垂れ着装）					学習のまとめ	オリエンテーション	あいさつ	移動			学習のまとめ
		剣道の歴史	日本剣道型	武道の話	武道の話	基本動作確認			弓具の紹介	グランドにて体験学習			
		剣道の特性	基本動作 ※対人 面小手胴	胴垂れ 着装説明	基本打突 (対人)	基本打突 確認			競技 武道としての弓道	行射			
		礼法指導	有効打突の 条件 ※気剣体	基本打突 (対人) ※送足	基本打突 (対人) ※応じ技 面抜き胴	判定試合 ※応じ技							
		基本動作 ※空間打突 面小手胴	リズム剣道 ※対人	基本打突 (対人) ※踏込足	判定試合の 説明 ※気剣体 判定	まとめ			基本動作 礼法	お礼			
		整理運動・ふりかえり・竹刀&胴垂の片付け・挨拶											

●指導の工夫

1 剣道について

本事業活用3年目となった。1年目は全学年が同じ学習内容で授業を行ったが、2年目、3年目と継続することで、各学年の段階に応じた内容で授業を行うことができた。また、光市内の中学校に剣道授業の様子を公開したり、山口県剣道連盟の授業協力者養成講習会を、本校を会場に開催したりすることにより、本校の剣道授業や本事業の様子や内容を伝えることができた。

2 弓道について

光市弓道連盟よりボランティアを含めた20歳代から80歳代の指導者6名を迎えて授業を行うことにより生涯スポーツを肌で感じる事ができた。本来であれば授業の中で行射まで行うのは難しいが、「弓を実際に射ってみたい」「的に当ててみたい」という生徒の思いに弓道連盟の方が応えてくださった。安全面を確保した上で、的までの距離を短くしたり、マンツーマンでの指導体制を構築して下さったりしたおかげで、全校生徒が行射を体験することができ、弓道の魅力に存分にふれることができた。また、授業時に報道3社が来校して取材を行い、弓道授業の様子が各方面に発信された。光市弓道連盟が部活地移行の登録団体であるため、部活地域移行の観点からも効果があると思われる。

●授業の様子



【剣道：模範演技】

授業協力者と3年間指導を受けた本校教員が模範演技を見せることで、生徒の意欲関心が高まった。



【弓道：行射体験】

3年間、継続して弓道を行うことで、行射体験において、的中する生徒が学年が上がるごとに増えた。

●生徒の取り組みや意識の変容、感想など

<p>1. 多様な武道（※2種目以上または、柔道、剣道、相撲以外の武道）を学習したことで、武道への関心は高まりましたか。</p>	<p>2. 多様な武道を学習したことで、伝統的な考え方や行動の仕方への理解は深まりましたか。</p>	<p>3. 多様な武道を学習する授業は楽しいですか。</p>
<p>■高まった ■やや高まった ■あまり高まらなかった ■高まらなかった</p>	<p>■深まった ■やや深まった ■あまり深まらなかった ■深まらなかった</p>	<p>■楽しい ■やや楽しい ■あまり楽しくない ■楽しくない</p>
<p>いずれの質問項目にも90%以上の肯定的な回答が得られた。授業後の感想で特に印象的であったのが、「礼儀」「礼法」「日本の伝統や文化」に関する記述をした生徒の多さである。剣道と弓道を専門的かつ楽しく学べたことで、多くの生徒が技能面だけでなく、今後の生活に活かすべく大切なことに気付くことができたようである。その傾向は、学年が上がるにつれ高くなった。武道の授業を通して、学校生活の他の場面でも生徒の成長を感じている。</p>		

●成果

- 2種目の武道の授業を通して、「礼儀」「礼法」を今後の日常生活に活かしていきたいという思いが年々向上してきたこと。
- 3年間、継続して指導者を招聘して「剣道」「弓道」の授業を行うことで、生徒が自らの技能の高まりを感じることができ、武道の魅力を感じる生徒が増えた。
- 武道推進モデル校を継続したことで、3年間の指導の流れを教員自身が学ぶことができ、指導力が向上したと共に、授業協力者である剣道連盟・弓道連盟の方との関係性の構築を図ることができた。

●課題

体育科教員が各学校の施設環境に応じた武道授業を行っているのが現状であるが、本事業を3年間、活用させていただき、武道のもつ特性や安全面の確保からは、専門家の授業が望ましいと考えるようになった。本校では、本事業を活用した3年間、武道の授業における生徒のケガは発生しなかった。しかし、このように指導してくださる授業協力者の人数も十分でないため、体育科教員の指導力向上はもちろんであるが、武道授業における新たな地域指導者の養成と発掘も大切であると考えている。